

エソタ



落語をよく知らない一般人が噺家に抱く先入観は驚くほど紋切り型だ。テレビで売れてる噺家には「テレビばかり出て落語をしてない」だし、テレビに出ていない噺家には「売れてへんぐらい面白くないやつ」である(笑)。どっちにいつても「地獄」のイメージである。実際は、テレビでよく見る師匠方は、各地でたくさん落語をしているし、テレビにあまり出ていない師匠方はテレビの有名名人に負けず劣らず高座で爆笑させていることも多い。結局、一般人の人は「見ていないし、知らない」だけだ。

こんな誤解や先入観はいっぱいある。私も噺家になるま

笑福亭 たま

で、桂ぎこば師匠はむちゃや者だと思っていたが、実際はものすごい優しい師匠だったし、常識人に見える〇〇師匠は本当は非常識だったし、人情噺が好きな△△師匠は人の気持ちを全く理解しなかったし、イメージと現実が違ふことは多い。

何かを正しく捉えるためにはイメージで決めるのではなく、しっかりと勉強しないといけないが、それは本当に大変だ。特に政治はややこしい。大阪の松井市長や名古屋の河村市長を見たら、ついキャラクターに目がいくし、吉村大阪府知事や大村愛知県知事や小池東京都知事ならキャッチーな発言に「やってる感」を感じてしまう。

しかしイメージで終わって

政治の現実 勉強せな



笑点のマネをする筆者

せんでええのに」とも思うが、それでは民主主義ではなく、「殿様に政治を任せろ」封建社会になっ

てしまう。封建社会は悪い殿様が現れたら一巻の終わりだ。

はいけない。記者会見の発言は一つの情報だが、その政策の効果や問題、整合性や真偽など、しっかりと自分で勉強しないと間違った先入観を抱いてしまう。複雑な現代社会で政治について理解しようとする、むちゃくちゃ勉強しないとアカンので「俺は政治家じゃないのに！」「何でこんな勉強せなあかんねん！」という気にもなる。

ふと「庶民はそれぞれ自分の仕事に専念し、政治家は国民のために一生懸命してくれたら、われわれはそない勉強

時代だ。そんな大変な時代なら、一般人の人が落語ごとき時間に割いていられないので、落語家に間違った先入観を持っても仕方がない。ちなみに多くの方の想像通り、噺家は皆、笑点に出たいんですよ(ウソ)。(落語家〓次回掲載は二月四日)